石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

IpNU キャンパスネット

2005.3 MAR. Vol. 7

大学院開設記念式
ワシントン大学学術交流記念講演会

9月25日、大学院の開設及びワシントン大学との学術交流を記念し、本学講堂で式典及び講演会を挙行した。

記念式では、谷本正憲石川県知事の挨拶の後、来賓として吉田歳嗣石川県議会議長、中村信一金沢大学副学長（金沢大学学長代理）から祝辞が述べられた。続いて、金川学長は平成12年の開学以来の念願であった大学院の開設と看護国際交流が実現したこととともに、社会のニーズに対応しての高度な看護職者、研究者の育成に努めること、ワシントン大学との交流をはじめとして国際的視野に立った教育・研究を深めていきたいと謝辞を述べた。

引き続いての記念講演会では、ワシントン大学看護学部教授のフランシス・M・ルイス博士が「看護の自律」と題して、看護の自律とは、看護師一人ひとりの能力の範囲内で、「自由裁量の、しかも決定したら誰も変えることのできない最終決定をくだす自由、また、その決定に基づいて行動する自由」とし、その自律を支える条件として「使命と哲学」、「仕事の内容の詳細」、「看護の標準」、「報償」、「進歩」などを挙げて講演した。自由の国としてのアメリカの「看護の自律」の精神を学ぶことができ、400名余りの参加者は聞き入った。

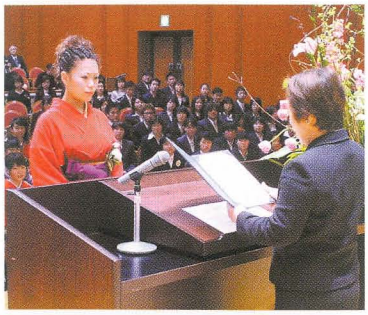
目　次

大学院開設記念式・ワシントン大学学術交流記念講演会 1
第2回卒業式 2
ＦＤ講演会 2
卒業研究発表会 3
卒業生の言葉 3
卒業生の進路状況 3
夏期アメリカ看護研修報告 4
国際交流の集い 5
新任教員紹介 5
大学祭 6
サークル活動紹介 6
この1年を振り返って 7
図書館から 8
地域ケア総合センターから 8
キャンパススケジュール 8

石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY
看護学部 看護学科・大学院 看護学研究科
〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL http://www.ishikawa-nu.ac.jp
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

第２回卒業式



３月13日、第２回卒業式が行われ、第２期生92名（男子５名、女子87名）の卒業を祝った。

卒業証書･学位記授与の後、金川学長は「本学の卒業生であることの誇りと自信を持って仕事をし、他人と心の通じるコミュニケーション能力を高め、専門職として常に進歩する新しい知識・技術を得るため、生涯にわたって研鑽に励んで欲しい」と式辞を述べた。また、谷本石川県知事から「少子・高齢化の進展する中、皆さんが地域の医療・保健・福祉の最前線で、それぞれの役割と責任を果たし、新しい時代の健康福祉社会づくりの一翼を担うことを期待します」との告辞が贈られた。

続いて、在学生代表の３年福村久美子さんの送辞に対し、卒業生代表の古川美紗子さんが答辞を述べ、最後に音楽サークルの合唱曲「さくら」に合わせて卒業生を送った。

FD講演会

FD委員会委員長　**佐々木栄子**

FDとは、Faculty Developmentの略で、大学教員（faculty member）の職務能力の開発（Development）を意味します。FD委員会は、教員の職業的な資質向上をめざし平成14年度より活動を開始しています。具体的には教育、研究、組織のマネジメント能力等の向上に向け活動しますが、一般的には教員の授業能力の開発を目指しています。

２月17日、第２回講演会をFD活動の一環として開催しました。お招きした講師は安岡高志先生です。東海大学理学部教授、同大学附属教育研究所所長等の重責を担って日々活動しておられます。著書は多数ありますが、「授業の道具箱」、「授業を変えれば大学は変わる」、「授業をどうする！」等は、FD活動を行う者にとってバイブルのような位置を占めています。

今回、先生には「どのようにして生み出す大学の魅力」について語って頂きました。会場の大講義室には参加者約100名が集い、終了後のアンケートには教員21名、学生48名が答えてくれました。アンケートの結果を分析し、今後のFD活動の課題を模索していきたいと考えています。

大学院（看護学科研究科看護学専攻修士課程）設置経過

平成14年４月	本学内において大学院設置委員会を発足
平成15年３月	大学院修士課程設置について県として正式表明
平成15年６月	文部科学大臣に大学院設置認可の申請
平成15年11月	文部科学大臣より大学院設置の認可
平成16年４月	大学院修士課程を開設（第１期生10名入学）

ワシントン大学看護学部との学術交流経過

平成14年10月	ワシントン大学（米国ワシントン洲シアトル市）において、両大学間の交流協議が成立
平成15年３月	本学学長とワシントン大学看護学部長とが学術交流協定書及び覚書を締結
平成16年３月	本学教員を客員研究員としてワシントン大学へ派遣
平成16年９月	本学学生19名を短期研修生として２週間ワシントン大学へ派遣
平成16年９月	ワシントン大学看護学部教授　フランシス・M・ルイス博士を客員教授として招へい

卒業研究発表会

卒業研究専門部会長　**江本　厚子**

本学の卒業研究は、主体的に取り組む研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を修得することを目的としています。４年次の４月には、漠然とした疑問だったものを、指導教員や同じゼミの仲間たちとのディスカッションを重ねて、りっぱな研究テーマとして練り上げていきました。データの収集、分析、論文作成と取り組むことで、研究プロセスを学ぶことができたと思います。昨年同様提出期限の１ヶ月前ぐらいから、夜遅くまで学内のあちこちで研究指導を受けている姿が見受けられました。提出後、学生の晴れ晴れとした顔には、達成感と充実感がみなぎり、凛々しさが加わったように感じられたのは私だけではないと思います。そして、その集大成として今年度も１月７日に卒業研究発表会を開催することができました。また、今年度は受験等で発表できない学生のために、１月13日にも開催しました。お世話になったフィールドからは27名の方が聴きにきてくださいました。発表の方法や資料も洗練され、時間どおりにすすめられたのは大きな喜びです。22名の卒業研究学生委員の活躍はもとより、全学的な支援があってこその成功と信じています。

卒業生の言葉

大学生活を振り返って

４年　寺井　　彩

今振り返ると、大学生活の４年間はとても早く過ぎたように感じます。高校生までとは違い、何事にも自主的に活動できるという点で、入学してから様々な事にチャレンジして、充実した学生生活が送れたという実感から、そう思えたのかもしれません。先生方が行っていた健康教室のアシスタントやウィズコミュニティサークルでは、学内の先生方はもちろん、地域の方々とも関わることが多く、日本看護学生会（ＪＮＳＡ；Japanese Nursing Students' Association）では、全国の看護学生との交流を持つことができました。

また、４年次には、県内で行われた看護フォーラムに参加し、看護師の方々の『看護』に対する強い思いを感じ、看護を志す者みなが各々自身の看護観を持ち、誇りを持つことが大切であると感じました。

この４年間、様々な経験を通して、看護学生として、一人の人間として大きく成長できたのではないかと感じています。母の座右の銘は『人皆わが師』ですが、私はその意味を多くの方々との関わりを通じ、実感しました。これからも人と人との関わりを大切にし、さらなる成長の糧としていきたいと思っています。

４年　本領真紀子

私が大学生活のなかで、最も大変だったと感じることは、４年次で経験した卒業研究です。

研究に取り組んだ４月からの８ヶ月間は、自分の研究を進めていくたびに本当に多くのことを悩み、考えました。私が特に苦労したと感じることは、自分の頭のなかの考えや思いを整理して言葉にし、相手に分かりやすく伝えるということでした。最初は自信が持てず、発言できませんでした。しかし、担当の先生方に「ディスカッションすることが研究」と教わり、自分の研究だから私が積極的に発言しないと自分が納得できる研究にならないと思い、自分の考えを述べるように努力しました。すると、ディスカッションを重ねるにつれて、見えなかったものが段々と見えてきて、研究の面白さを感じるようになりました。

私は、この研究で得た学びを生かし、相手を納得させたり理解を得られるように、自分の考えを伝えられる技術や表現方法を身につけていきたいです。

卒業生の進路状況

３月現在の進路内定状況は、第１期生に引き続き第２期生についても100％となっております。

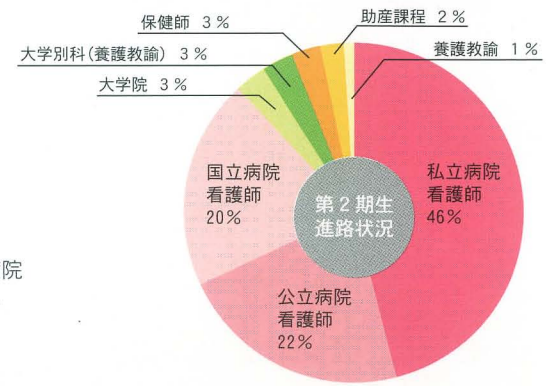
＜県内就職＞

石川県立中央病院
石川県立高松病院
金沢大学医学部附属病院
国立病院機構金沢医療センター
金沢医科大学病院
石川県済生会金沢病院
県及び市町村保健師など

＜県外就職＞

順天堂医院
北里大学病院
国立循環器病センター
国家公務員共済組合連合会虎の門病院
国立病院機構東京災害医療センター
富山県立中央病院
福井県済生会病院など

第２期生進路状況（平成17年３月現在）



夏期アメリカ看護研修報告

引率教員　**伴　真由美**

８月31日から９月13日の２週間にわたり、本学にとって第１回の夏期アメリカ看護研修が実施されました。初めての研修に応募した勇気ある学生19名（２年生１名、３年生10名、４年生６名、大学院生２名）とともに、私もワシントン大学のあるシアトルへ行かせていただきました。

シアトルは、カナダとの国境を持つワシントン州にある、緑と海と湖に囲まれた、とても美しい街でした。学生たちは、威厳があり広くて美しいワシントン大学のキャンパスで、英語レッスンや看護の講義を受けたり、アメリカの看護・医療・福祉の実際を５つの施設を訪れて見学したりしました。またホームステイも体験し、アメリカの生活・文化を実感することもできたことと思います。みんなとても熱心に取り組み、いきいきと楽しそうでした。学年を超えて団結力が強まり、お互いに助け合えたことも、異国で生き抜くには大切なことであったと思います。

感動したこと、学んだこと、自分についての気づきなど、たくさんの思い出とともに、全員が無事に研修を終えて帰国することができました。海外研修での経験は、学生たちの視野を広げ、将来学生が社会で活躍する際の自信の裏付けとなることと思います。

アメリカ看護研修報告会

10月７日、研修の修了証書授与式及び報告会が開催されました。金川学長から一人一人が修了証書を受け取りました。報告会は、研修に参加した学生達が主体的に計画し、研修のスケジュール及び内容、研修で感じたこと・学んだこと、今後参加を希望する学生へのメッセージなどを、資料及びスライドを準備して、とてもわかりやすくいきいきと伝えてくれました。壮行会等で見送ってくださった、本学の教職員、学生に、一回り成長した姿を見ていただくことができたかと思います。

アメリカ看護研修に参加して

3年　**原　　陽子**

慣れない英会話、生活習慣・人柄の違い…と全く違う世界の中で四苦八苦しながらの２週間でしたが、得たものは非常に大きかったと思います。

元々がん看護に興味があり研修に参加しましたが、その面では援助施設や患者さんが闘病生活中に製作した作品を目にし感じるものも多く、米国のがん看護の精神に触れることで、日本の看護の良さやごく自然に持っている感性の価値もよくわかり、単純ですが実際に間近で見て学ぶことで自分に吸収できた度合いが高かったように思います。

また、看護全般でも、米国のニーズや価値観に合った形での医療・看護が在り、常識を覆す事も存在していました。例えが少し悪いですが、料理自体を知らないと夕食の献立の選択肢に上がらないように、向こうで見た知識を用いるかは別として様々な在り方を見ることで、自分の思考・対処の幅が広がるので、そんな意味でも今回の研修は色んな視野と可能性を広げてくれたと考えています。

3年　**福田　人味**

最初は自分に自信がもてず、積極的にコミュニケーションをとることができませんでした。ホームステイ先のパーティに参加したとき、「何故あの子たちはしゃべらないの？」と言われショックを受けたこともありました。アメリカでは、思ったことを伝えることはあたりまえです。初めはその感覚に入り込めませんでしたが、自分の思いを口に出していくうちに、徐々に自分に自信を持つことができたように感じました。誰もがみんな親切に接してくれ、私の拙い英語を一生懸命に聞いてくれました。

大切なことは、どんなに拙い英語であろうとも失敗を恐れず、勇気をもって“自分の思い”を伝えようとすることが大切なのだと感じました。また、日本の良さ、日本の看護の良さ、相手の気持ちを“察する”“酌み取る”というような日本独自の暖かさがあることを改めて感じることができました。

今回の研修は、何もかもが初めてのことで、不安で戸惑うことも多かったですが、２週間の研修を終え振り返ると多くの出会いや発見があり、本当に貴重な体験をすることができたと実感しています。

国際交流の集い ―ルイス博士をかこんで―

国際交流委員会委員　**齋藤　好子**

ワシントン大学との学術交流協定により招かれたルイス博士と学生との交流会及び送別会が、９月29日に開催された。博士と学部学生とが親しくふれあう最初で最後のチャンスであるので、なるべく多くの学生に主体的に参加してもらえるように声をかけた。実行委員の学生は総勢約30名。７月中頃から実行委員会を開催し、司会、会計、装飾、食べ物係等に分かれた。実際の作業は９月後半に集中的に行った。当日の進行表、必要物品一覧や会場設定図を細かく作るなど、看護学生ならではの姿も見せ、前日にはリハーサルを実施したりと、かなり周到に準備した。

当日の出し物は、合唱、書道や大学生活の紹介、よさこい踊りや大学院生の合奏、ルイス博士への質疑応答等盛りだくさんで、博士だけではなく参加した99名全員が心から笑い楽しんだ。

この日のために装飾や食べ物、出し物等に一生懸命取り組んだ学生達のエネルギーが、大きな感動を作り出した日であった。

国際交流の集いに参加して

3年　**木谷　奈央**

私は、ルイス博士との交流会で司会を務めさせていただきました。英語は好きでしたが、文法などは苦手だったので、博士やみなさんに理解してもらえる内容の原稿を作成することができるのか。また、博士に通じる発音で話すことができるのかという不安や緊張で一杯でしたが、齋藤先生や一緒に司会をした南堀さんの協力により、無事に司会進行できました。

ルイス博士は私たちの出し物や会話に興味を持って参加して下さり、私の質問に対しても温かく、優しく、そして真剣に答えて下さいました。博士からワシントン大学の看護学生は、１科目の講義のために３時間の予習をしているという話を聞き、向こうの学生たちは、看護学を熱心に学んでいるという印象を受け、大変驚きました。

会場内は終始笑顔や笑い声があふれ、みんなと一緒に楽しい時間を過ごすことができ、私にとっても色々な場面での英語の使い方を学ぶ良い機会となりました。

新任教員紹介

ごあいさつ

基礎看護学講座
教授　**藤本悦子**

昨年10月に赴任しました。ご挨拶を兼ねて少し自己紹介をさせて頂きたいと思います。

２つの大学を卒業しています。１つめの大学で薬学を勉強し、卒業後は医学部解剖学講座に所属して教育と研究に従事しました（研究テーマは神経系の発生と再生です）。２つめの大学で看護学を勉強しました。看護学を通して、人体を医学的側面からだけでなく、生活をしている人・疾病を抱えている人として捉えることが出来きるようになったと感じています。

本学では基礎看護学を担当しています。看護がヒューマン・ケアリングであるということをしっかり見据えて、同時に、これまでの経験を生かして看護と解剖生理が乖離しないように教育していきたいと思っています。研究においては、看護行為を検証・開発することを目指しています。

趣味は温泉巡り。最近は両親と休みのたびに近場の日帰り温泉へ、いそいそと出かけております。お風呂上がりに豪華ではありませんが美味しい食事……まさに至福の境地です。

これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

キャンパスライフ

大　学　祭

2年　出村　茉央（看大祭副実行委員長）

10月30、31日の 第５回看大祭が終了しました。あの忙しかった日々が嘘のように、いまでは穏やかな生活を送っています。

実行委員会結成から学祭当日までの７ヶ月間はあっという間でした。今年は「地域密着・看大らしさ・多くの人の参加」という３つのコンセプトのもと、様々な企画を立ち上げ、地域の方々を巻き込んだ新しいチャレンジをたくさんしてきました。そんな中で、壁にぶち当たったり、自分の仕事でいっぱいいっぱいで周りに目が向けられず自己嫌悪に陥った時期もありましたが、実行委員のみんなや、教員の方々、地域の人たちの協力でそれもはね除け、見事大成功をおさめることができました。さらに、充実した日々を過ごす中で「逃げ」と「受身」の姿勢だった自分の性格を大きく成長させることができました。この今年の成功を来年につなげるために、今後も何らかの形で看大祭に関わらせていただいたいと思います。そしてこの楽しく充実した日々を少しでも多くの後輩に感じてほしいです。

また、看大祭で集めさせていただいた新潟県中越地震の義援金は、皆様のご協力の下82,467円集まり、日本赤十字社に寄付させていただきました。多くのご協力ありがとうございました。

サークル活動紹介

茶道サークル

2年　北瀬　公香

私達茶道サークルは毎週火曜日、部員10名で活動しています。流派は、裏千家で練習日には外部から先生を招き、本格的な茶道を楽しんでいます。先生のお人柄かとてもなごやかな雰囲気でみんな楽しみながらお稽古に取り組んでいます。

現在は年に２回のお茶会を開いています。一つは秋の大学祭にて行っています。毎年好評で、部員みんながお稽古の成果を発揮できるよう頑張っています。

もう一つは新年の初釜です。金川学長をはじめ、たくさんの先生方に足を運んでいただいています。

私達は茶道という日本文化の一つに触れることで、様々なことを学ぶことができました。常日頃から「相手（お客様）を思う心が大切」だと先生から教えていただいています。作法の一つ一つには相手を思う気持ちがこめられていることを知り、作法の技術だけでなく、人を思いやる気持ちのあたたかさややさしさの大切さを感じています。

これからも、このすばらしい日本文化に親しみ、活動を活発にしていきたいと思います。

剣道サークル

2年　金布　佳子

こんにちは。剣道サークルです。剣道サークルは2003年の５月にでき、今年で３年目を迎えます。サークル員は全学年合わせて31名ですが、そのうち経験者は６名です。顧問は松原先生です。毎週金曜日の午後６時から活動をし、楽しく汗を流しています。

このサークルの目的の一つに、学年を越えた交流があげられます。普段は学年ごとに授業を受けているだけで、同学年でもみんなで何かをするというきっかけが少なく交流がほとんどありません。今年の大学祭の模擬店ではみんなで協力し、よい思い出ができました。

剣道サークルでは、剣道をするだけではなく、いろんな人との交流の中でこれからの自分を見つけていけたらいいと思っています。今年は、毎年計画だおれになっている合宿、試合などの行事を増やしてより充実した大学生活を送りたいと思っています。

この１年を振り返って

基礎看護学実習Ⅰ
１年　**河島絵里菜**

12月に行われた、基礎看護実習Ⅰでは、毎日のカンファレンスで、情報を交換し、意見を出し合うことで「個人の学び」をグループで共有し、「私たちの学び」とすることができました。このため、より広い視野を持って学ぶことができた思います。

また、この実習では、自己を見つめることがとても重要になりました。「自己を見つめ、問題点を認め」では、自分はどうあるべきなのか、これを考えることで、今後の課題を得ることができました。

さらに、自分の知識や技術の未熟さを実感し、悔しい思いをしました。この気持ちを忘れず、今後学習に取り組みたいと思います。

この実習では、職員の方々はもちろん、利用者の方々に、とても支えられました。私はここでの学びを生かし、今後の課題を常に自分に問いながら、この先は支えられるだけでなく、支えあえる存在になりたいと強く思いました。

基礎看護学実習Ⅱ
２年　**田　かなえ**

この１年を振り返って、まず１番に思い出すのは、基礎看護実習Ⅱのことです。この実習は、私達にとって初めての病棟実習でした。１人の患者さんを受け持たせていただけるということで、実習前には必死で看護技術を練習し、看護過程などについてたくさん勉強しました。何かミスをして患者さんの病状を悪化させてしまったら、患者さんとうまくコミュニケーションをとれなかったらどうしよう、と不安でいっぱいでした。

しかし、実際に実習が始まってみると、楽しくて仕方なかったです。看護計画を立てたり、患者さんへのケアを行う上で、自分の無力さを感じることは多々ありましたが、患者さんと接して、コミュニケーションをとれることがすごく嬉しくて楽かったです。ずっと患者さんのことを考えて、夢にまで見ました。この実習で、一生忘れられない貴重な体験を得られましたし、改めて看護職を目指そうという気持ちになりました。

第Ⅴ段階実習
３年　**高尾このみ**

３年次生という学年は予想以上に早く過ぎていきました。中でも、４ヶ月間の実習があっという間に終わってしまい、今は達成感や反省が入り混じった状態です。

実習では貴重な出会いがたくさんあり、多くのことを学びました。患者さんは疾患とともに生きてこられた、またはこれからも付き合っていく方々でした。痛みや対処方法については患者さんの方がよく知っているので、自分に何ができるのか悩みました。

その時点での結論は自分の力に限界があるということを自覚し、患者さんと一緒に悩んだり歩むことで、少しでもお手伝いができるのではないかということです。そのためにはコミュニケーションをとることや観察、疾患の影響など様々な視点から患者さんにアプローチしていく必要があり、患者さんに近づくことのできる知識や技術をもっと身につけていかなくてはいけないということを実感しました。この実習で得た多くの学びから自分自身の今後の課題を明確にし、さらに向上していけるよう努力していきたいです。

大学院
１年　**浦山　晶美**

私は助産師として海外そして日本の臨床で仕事をしてきました。リベリア（西アフリカ）では乳幼児死亡率は50％以上でした。非常にシンプルな原因、例えば下痢等で命が失われます。これは、母親の教育で改善が可能です。

イギリスでは、幼児虐待が毎日のように報道され、母親とその子供への治療の必要性が叫ばれていました。そして日本に戻ると、少子化、虐待、犯罪の若年化が社会問題になっています。地球の将来を担う子供達が危機にさらされている！と感じています。子供を守るには、母親への支援が大切です。母親は子供にとって最初に出会う養護者であり教育者です。その子の将来の鍵を握っているのは、愛情ある母親（養護者）です。育児困難の原因は多数ありますが、現代社会の仕組にもその一端があり、親だけの責任ではないと思います。地域住民、社会がもっと協力し関心を向けていく必要性があり、母親の状況を理解し優しく導く存在が必要です。

私は修士の修了時には、理論と実践を調和させて、母親に寄り添う子育て支援を実践できるように成長したいと願っています。

図書館から

図書館のデータベースの利用について

当館は、地域に開かれた図書館としての活動方針が広く周知され、県内外から多くの医療関係者や一般県民の方々にご利用をいただいております。

通常の図書貸出や文献提供サービスはもとより、各種のデータベースを利用した文献検索指導も行っておりますので、お探しの資料が見つからない場合は、カウンター職員にお気軽にお尋ねください。

また、昨年の12月より持込パソコンの使用コーナーを館内に設置しました。ご使用を希望される方は、カウンターまでお申し出ください。

平成17年度からの図書館の利用時間は、平日（月曜から金曜）は９時から21時までになります。

なお、春季、夏季、冬季などの長期休業期間は、従来どおり９時から19時までとなります。

当館では皆様のご利用をよりスムーズにしていただくため、図書館カレンダーをホームページ上に掲載しようと只今準備中です。今後とも、当館の利用につきまして、ご意見等がありましたらお聞かせいただければ幸いです。

（図書館カレンダーは、本学のホームページ http://www.ishikawa-nu.ac.jpよりアクセス出来ます。）

地域ケア総合センターから

平成16年度のセンター事業を振り返ると、従来の公開講座をはじめとする人材育成事業に加えて、新たに看護学術講演会や専門看護師（CNS）研修の開催、また、指導助言事業としては「看護電話相談」、高齢者の「歩行と健康」、「多胎児を産み育てる家庭等への支援」、サポートグループ「天使のゆりかご」活動育成事業などを実施しました。

また、３月６日には、災害看護の現状と課題をテーマとして卒業生への「第１回看護大学卒業生活動支援研修」を開催しましたが、卒業生をはじめ学内外から多数の参加があり有意義な研修だったとの声が聞かれました。

実施した事業がこのように円滑に進められたのも、ひとえに、多くの方々のご協力のおかげと深く感謝いたしております。

次年度も、センターの諸事業や調査研究の成果などを広く社会に発信し、地域の看護福祉に貢献出来るよう事業企画運営に努めていきたいと思います。

センターは大学と地域との連携を促進する総合窓口ですので、研修会などセンター事業へのご要望等をお寄せ下さい。

キャンパススケジュール　2005年度

前期

4月6日(水)	入学式
4月7日(木)・8日(金)	ガイダンス（1年次）
4月8日(金)	健康診断
4月11日(月)	前期授業開始
4月11日(月)～18日(月)	前期履修登録受付
5月29日(日)	開学記念日
5月30日(月)	特別講演
7月（予定）	オープンキャンパス
8月10日(水)～9月30日(金)	夏季休業
8月30日(火)～9月13日(火)	夏期アメリカ看護研修

後期

10月3日(月)	後期授業開始
10月3日(月)～11日(火)	後期履修登録受付
（ただし、2年次は10月17日(月)～21日(金)）	
10月29日(土)・30日(日)	大学祭（看大祭）
12月26日(月)～1月6日(金)	冬季休業
（ただし、4年次は12月27日(火)～1月6日(金)）	
3月13日(月)～	春季休業
3月18日(土)	卒業式・修了式

発行　石川県立看護大学広報委員会
〒929-1212　石川県かほく市中沼ツ７番１
TEL 076-281-8300　FAX 076-281-8319

R100
古紙配合率100％再生紙を使用しています